

マスコミは連日、バンク
「バー・オリンピック」の話
題を取り上げている。それ
だけ国民の関心や期待がス
ポーツにはあるということ
だろう。一方、行政刷新会
議では、スポーツ予算は「削
減」の烙印（らくいん）を
押された。国民はスポーツ
に多くの関心や期待を寄せ
ているが、国は予算を削減
するという。しかし、強化
費名目の補助金頼みではや
はり日本のスポーツの将来
は決して明るくない。

前半戦の話題といえは、
服装問題だろう。この問題
について私はひとつだけ違
和感を覚えた。それはその

SPORTS MUST CHANGE

谷塚 哲



選手が所属する学校や連盟
の対応である。「誠に遺憾
である」「全体応援を中止
する」「出場辞退」などの
発言が学校や連盟から出て
きたことが残念だった。

これらの対応は組織のリス
スクマネジメントとして常

方だったかもしれない。こ
の問題の本質はそう難しい
ことではない。われわれ大
人がどれだけ選手に対して
責任と、「愛情」を持って
接しているかどうかという
ことなのである。毎日の生
活の中で、日々の練習の中

した。招致が成功していれ
ば不問となったことが、失
敗に終わるとクローズアッ
プされてしまうが、これだ
けの大金、まして東京都民
の税金も含まれていけば仕
方がないことである。

利益を生む可能性があるた
め、多くの利害関係者が群
がる。ビジネスであるから
こそ、今回かかわった一人
ひとりの責任が問われなけ
ればならない。いずれにせ
よ招致活動の総括をしなけ
ればならないだろう。

招致の責任 検証を

とう手段であるが、組織の
保身にしか聞こえない。む
しろ選手と一緒に頭を下げ
ることが組織の責任ではな
いか。橋本選手団長の「私
の責任で」という発言が選
手にとって唯一の救い（味

で、そして空港のロビーで、
私たちにできたことはいく
らでもあったはずである。
先日東京オリンピック招
致活動の報告が行われた。
支出は約150億円にも上
り、7億円近くの赤字を出

託の80%以上を一社との契
約としていたことにも疑問
が残る。オリンピックは商
業的な面からみれば格好の
コンテンツであり、スポン
サー、放映権、権利関係に
おいて莫大（ばくだい）な

服装問題の渦中となった
選手は最後まで自らのスタ
イルを崩さなかった。賛否
はあるが、すべての批判を
自らで受けた。東京オリ
ンピック招致もその責任を明
確にし、次回の招致活動に
生かしてほしい。
（REGISTA有限責任
事業組合代表）

隔週土曜日掲載